

2024 年度 4Q 決算説明会 主な質疑応答
(2025 年 5 月 13 日開催)

<クロロプレンゴム事業の抜本的対策>

Q1：クロロプレンゴムの抜本的対策により連結営業利益が 2024 年度比で 2025 年度+90 億円、2026 年度 +150 億円の効果を見込んでいるとのことだが、詳細は？

A1：米国 DPE※の製造設備の暫定停止により想定される影響を勘案すると、コストが削減される効果などにより通期 150 億円程度の改善効果があるが、2025 年度は 2024 年度から繰り越されたコスト単価の高い在庫を販売する為、効果額が通期で+90 億円となる見込み。

※Denka Performance Elastomer LLC：米国クロロプレンゴム製造子会社

Q2：米国でクロロプレンゴムの製造を行う DPE には米国関税によるメリットもあると考えられるが、設備稼働再開の可能性はあるのか？

A2：DPE が置かれている状況を考慮すると米国関税によるメリットを考慮しても、収益性の改善が困難な見通しであり、今回の暫定停止に至った。

Q3：DPE の雇用や製造設備の今後の予定は？

A3：DPE では、現時点で雇用に関しては何ら決定には至っていない。DPE は足元では定修作業を行っており、その後は、製造設備内、タンク内などに残った原材料や中間品などの危険物の抜き出しおよび処分などを進める予定。

<関税影響>

Q4：関税影響の詳細は？

A4：当社の米国向け売上高は約 300 億円程度あり、営業利益の影響として概算で売上高の 10%にあたる 30 億円をリスクとして織り込むことにした。先行き不透明な状況のなか、価格への転嫁を可能な限り行うなど、関税による悪影響を最小限に努める。

<電子・先端プロダクツ>

Q5：.2025 年度は xEV 向けの販売が前年並みの想定であることや、先行投資によるコスト増加が見込まれるなか、営業利益予想（100 億円）が 2024 年度実績（92 億円）から増益の見込みとなる背景は？

A5：.アセチレンブラックでの高圧ケーブル向け需要の拡大や、球状アルミナ、球状シリカ、スネクトンでの生成 AI 向けの販売が牽引役となり、2025 年度は増益の見込み。

Q6：球状シリカ、球状アルミナの販売のうち、生成 AI 向けが占める割合はどの程度か？

A6：球状シリカ、球状アルミナともに生成 AI 向けが売上高に占める割合は 2 割程度。

Q7：2025 年度の基板事業の事業モデル変革では、価格改定や直流送電向けの需要の伸びを想定しているとのことだが、詳細は？

A7：セラミックス基板は車載向けと電鉄向けが主な用途であり、放熱性の高さに加え、電圧レベルの高い領域で価値を認められている。当社の製品の特長を十分にご理解頂き、価格を是正させて頂ける顧客に集中して販売をしていく方針。また、高信頼性放熱ベース板であるアルシンクでは、需要が堅調に推移している電鉄向け用途に加え、風力発電などに使用される直流送電向けという新しい需要が急速に伸びている。

以上